

データ不正続々

JR=不正という社会的イメージ

全国の鉄道会社で列車の車両部品をめぐ
る不正が明らかになっていきます。問題の発
端となったのはJR貨物。今年7月に発生
した新山口駅での脱線事故をめぐる社内調
査で社員からデータ改ざんが報告されまし
た。9月11日には全国ですべての貨物列
車が一時的に運行を取りやめ。物流に大き
な影響が出ました。

この事象を受け、国土交通省は全国の鉄
道事業者に緊急点検を指示。残念ながら
続々と基準値外の車両やデータ改ざんが報
告されました。(左図)

	車軸圧入力値基準値外	データ改竄
JR 貨物	機関車 4 両・貨車 627 両→運用停止	あり
JR 東日本	76 本 (うち 8 本でデータ書換え) 過去 9 年間 1200 本の改竄発覚も公表 せず	あり
JR 九州	新幹線 1 本→取替え、在来線 392 本	なし
JR 東海	11 本→使用停止	なし
JR 西日本	2 両	なし
JR 四国	90 両超過、6 両は下回る	なし
JR 北海道	基準値外 250 本、未記録 203 本	なし

*東京メトロや京王電鉄でも改竄、その他私鉄でも圧力超過あり

昨年、ダイハツでは国の認証試験で不正を行
ったことが発覚。これに端を発して自動車業界
で数々の不正が発覚しました。トヨタ・マツダ・
ヤマハ・ホンダ・スズキと芋づる式に不正が発
覚した様子は現在、鉄道業界で起きている事態
と似ています。

ダイハツの調査報告書では、「短期開発」「人
員不足」「企業風土」などが不正の原因として挙
げられています。過去に短期間で開発できた成
功体験により、その後も短期開発が求められる
ようになり、余裕をなくした現場。さらに人員
削減も行われ、従業員は日々疲弊。他者の失敗
に対して必要以上に叱責する場面も多く、助け
合う企業風土も無かったそうです。

自動車業界で起きた不正を受け、襟元を正そ
うという考えは「自分ごととして考えろ」と言
っている我が社も含め、残念ながら鉄道業界に
はありませんでした。それどころか社長の指示
による浸水隠しを行ったJR九州高速船は2年
連続で行政処分を受け、九州運輸局から安全意
識の欠如を指摘されました。もはや『JR』組
織ぐるみの不正」というイメージが定着しつ
つあります。

近年、行き過ぎた合理化が問題となっていま
すが、サービスレベルや輸送力、人員を削減す
れば経費が浮くのは当たり前で、そこから生ま
れるのは主に安全を犠牲にした利益です。経費
削減施策の成功体験は節約＝良い事という企業
風土を定着させましたが、果たして本当にそれ
でいいのでしょうか？利益を減らしてでも安全
投資する発想が無ければ、再び重大な事態が起
きかねません。

第191号

2024年10月1日

発 責 国労九州本部

住 所 博多区博多駅東3丁目9

番 3号ニッコウハイツ 1003号

